指定管理鳥獣捕獲等事業交付金

令和4年度　効果的捕獲促進事業（効果的捕獲モデル・技術開発タイプ）の成果

■　技 術 名　：ＤＸ(ドローン)を活用したくくりわなでの効果的な捕獲活動の実証
■　実施主体：静岡県
■　実証地域：静岡県伊東市岡・鎌田
■　実証期間：令和４年１０月～令和５年３月
■　委 託 先　：株式会社スカイシーカー　■　協　　力　：田方猟友会伊東分会

1　事業の課題・目的

① 事業の課題

○糞粒法の個体数推定で、ニホンジカの生息密度は高いが、捕獲体制が脆弱なため、捕獲活動が充分にできない場所を重点的に捕獲する必要がある。

② 事業の目的

○ドローンに搭載した赤外線カメラの画像を活用してニホンジカの生息・移動状況を把握し、生息分布図を作成し上で、くくりわなをリアルタイムで設置し、捕獲効率が向上するか実証する。

2　事業の内容・結果

① 事業の内容

○ドローンに搭載した赤外線カメラにより、ニホンジカの生息・移動状況を撮影
○即時に画像を解析して、生息分布図を作成し、ドローン撮影の翌日に、捕獲従事者に提供し、生息分布図を基に、くくりわなを設置
○撮影を日没後、夜、夜明け前の３回行うことで、時間帯による出没場所の把握や、個体群の移動範囲等を推定

② 事業の結果

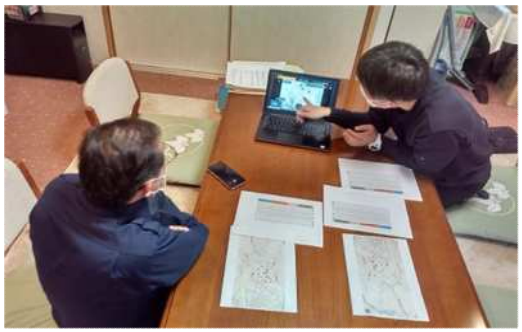
○11月末から捕獲活動を開始し、１月末までに４７頭のニホンジカを捕獲。捕獲効率は、前年度の伊豆地域における県管理捕獲の平均と比較し、約1.６倍
○捕獲活動を実施した地区猟友会からは、「ライトセンサス調査では、確認できなかった区域で、ニホンジカの生息・移動を確認でき、捕獲従事者の士気が高まった。」との意見

3　事業の評価・改善点等

○ドローンの活用で捕獲効率が高くなり、捕獲活動にとって有効であることを実証
○反省として、捕獲従事者が少なかったため、生息頭数に見合うくくりわなの台数を設置できず
○今後は、地元市町等の協力を得ながら、捕獲活動への参加を促し、地域ぐるみで捕獲活動に従事するなど、事前により強固な捕獲体制の構築が必要

撮影されたニホンジカの個体群の画像

生息分布図（数字はニホンジカの生息頭数）



捕獲従事者への情報提供
（画像の確認・生息分布図の提供）